小樽桜陽高校　通信　「さくらふぶき」第７号

○だいじょうぶだぁ

　３月２９日、新型コロナウイルスで志村けんさんが亡くなった。
「志村世代」の先生にとって、とても悲しい出来事だった。小さい頃「８時就寝」だったが、土曜日だけは「９時就寝」だった。『８時だョ！全員集合』を見るためだ。
　ほとんどが生放送か公開録画（全国各地）だったこの番組は、おそらく日本中の子どもたちが愛してやまない番組だった。中でも志村けんさんは、子どもたちのアイドルだった。志村けんさんのことを好きじゃない子どもは、日本にいなかったと思う。「最初はグー」を作ったのも、「赤信号　みんなで渡れば　怖くない」（ダメなことだけど…）を流行させたのも、「カラスなぜ鳴くのカラスの勝手でしょ」（童謡『七つの子』の替え歌）を大流行させたのも、志村けんさんだ。「スイカの早食い」なんて、先生を含め誰もが真似した（今でもスイカを食べる時にやりたくなる）。
そりぁ“ＰＴＡが最も子どもに見せたくない番組”になるのも、親になってみると納得できる。
　先生の住んでいたところはかなりの田舎だったので、公開録画の会場には行けず、いつも羨ましいと思いながら、ブラウン管の向こうに映る志村けんさんに「志村、うしろ！」と届かぬ声をぶつけていた。
　志村けんさんが亡くなってから、２人の息子たちにネットを使って『８時だョ！全員集合』を見せている。息子たちは爆笑。「志村、うしろ！」と叫ぶ息子たちを見て、自分の子供時代を思い返す。令和の時代になっても、ドリフターズの、志村けんさんの生み出す笑いは健在だ。
　日本中を笑顔にした志村けんさんが、最期は一人だったと思うと胸が苦しくなるし、日本中、世界中で多くの方が感染し尊い命を亡くしている。新型コロナウイルスは本当に恐ろしいし、いつになったら学校が始まってまた元通りの生活が送れるようになるのか不安だらけだけど、下を向いていても仕方ない。前に進むしかない。私たちのうしろから志村けんさんが笑顔で言っている気がする。
　「だいじょうぶだぁ」って。

１年１組　担任　三澤　直人